

1 梨の生育状況

果実肥大は、6月16日の無作為調査結果では、「幸水」の横径は36.0mm（前年値32.8mm 平年値35.2mm）で、前年より大きく、平年並みです。

2 黒星病について

- 現在発病している、黒星病斑が感染源となり、降雨のたびに感染が広がる恐れがあります。
- これらは見つけ次第、早急に切除して園外に持ち出し、適正に処分してください。

表1のとおり、6月中旬における「幸水」、「豊水」の果そうの発病率は多発年となったH27年に次いで高く、「あきづき」はH27年以降、H30年に次いで高くなっています。

表1 年次別の6月中旬の黒星病発病果そう率(%) 令和4年調査日：6月15日

品種	R4	R3	R2	R元	H30	H29	H28	H27
幸水	34.4	2.6	0.4	2.8	19.7	5.9	6.7	45.8
豊水	24.4	1.6	1.1	4.6	19.2	14.6	8.4	42.6
あきづき	5.0	1.2	0.0	0.0	7.0	3.0	2.0	7.2
新高	0.0	0.0	0.0	0.7	4.0	0.1	1.6	31.3

3 仕上げ摘果作業について

- ・摘果作業は、黒星病の発生に十分留意し、果実の大きさ、形、果軸の太さ、傷の有無、果実の向き（上向き果や重度なサビダニの被害果は軸折れの恐れあり）等を考慮して表2の着果量を目安に進めましょう。

- ・なお、黒星病の罹病果は確実に切除して園外に持ち出し、適正に処分してください。

※補正摘果基準表が必要な方は、資料をお渡ししますので梨会館にお越しください。

表2 仕上げ摘果時の着果量(目安)

品種名	1㎡当たりの着果量	側枝長当たり(100~120cm)	1樹当たりの着果量(3間植の場合)
幸水	10~11果	5~6個	290~320果/樹
豊水	11~12果	6~7個	320~350果/樹
あきづき	11~12果	6~7個	320~350果/樹
新高	9~10果	4~5個	260~290果/樹

4 コンフューザーNの追加設置について

ナシヒメシンクイやハマキムシ類は梨の収穫期間中にも発生します。収穫期間中は農薬防除が困難なため、収穫前までにコンフューザーNを追加設置し、対策の強化を図ってください。

	内容	注意事項
設置本数	50本/10a	①ほ場の外周は有効成分濃度が薄くなるため、多めに設置する。 ②傾斜地では斜面上側を多めに設置する。 ③周辺にウメやモモがある場合には、これらを含めて設置する。
設置時期	7月下旬から8月初旬 (「幸水」の収穫前までに)	
設置間隔	約4.5m間隔(1樹あたり1~2本程度)	

5 これからの防除について

☆防除は「降雨前」、SSは「低圧、低速、全列走行」を心掛けましょう

【重要項目】

○第14～16回目の防除は、「幸水」の果実が黒星病に最も感染しやすい時期の防除となります。
効果の高い防除を実践するため、散布間隔は10日以上空かないよう、また、雨前散布に努めてください。

○短果枝群、側枝の基部では葉の展葉にともない薬剤透過が劣り、黒星病の感染・発病を助長させる原因となりますので、摘果作業と並行して新梢管理（芽かき、新梢の切除）を実施してください。

回数	散布月日	薬剤名と希釈倍数	散布量	主な対象病害虫	防除実施日 (自己記入)	
13	6月26～28日	ユニックス顆粒水和剤 47 (※1)	2,000倍	400 ㍓	黒星病 ハダニ類、 ニセナシサビダニ	
		ダニゲッターフロアブル	2,000倍			
●殺ダニ剤の効果を十分発揮させるため、散布前には必ず草刈りを実施しましょう						
14	7月1～3日 (満開後76 ～78日)	ストロビードライフロアブル (QoI 剤)	3,000倍	300 ㍓	黒星病、輪紋病、 黒斑病、うどんこ病	
		オーソサイド水和剤80	1,000倍			
15	7月11～13日 (満開後 86 ～88日)	オンリーワンフロアブル (DMI 剤)	2,000倍	300 ㍓	黒星病、輪紋病、 黒斑病、うどんこ病 シンクイムシ類、カメムシ 類、ケムシ類、コナカイガラ ムシ類	
		ベルコートフロアブル	1,500倍			
		アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍			
16	7月21～23日 (満開後 96 ～98日)	ネクスターフロアブル (SDHI 剤)	1,500倍	300 ㍓	黒星病、輪紋病、 黒斑病、うどんこ病	
		オーソサイド水和剤 80	1,000倍			
17	7月31日 ～8月2日	オーソサイド水和剤 80	1,000倍	300 ㍓	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、ハマキムシ 類、カメムシ類	
		アグロスリン水和剤	2,000倍			

※1 黒星病の発生が多いことから、13回目の防除でダニゲッターフロアブルにユニックス顆粒水和剤 47 (2,000倍 年間3回以内) を加用してください。

・散布に当たっては、希釈倍数や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。

周囲の農作物や住宅等への農薬の飛散に十分注意して散布してください。
特に、通学路に面した園地では登下校時の時間帯を考慮して散布してください。

こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。